

第4回 教育委員会 会議録

1 開催日時 令和7年4月17日(木) 午前9時57分

2 開催場所 大町市役所 庁議室

3 出席委員 教 育 長 中 村 一 郎
同 職 務 代 理 者 下 川 清 志
委 員 森 し の ぶ
委 員 北 澤 明 美
委 員 奥 原 圭 永

4 説明のため出席した者

教 育 次 長	太 田 三 博
教 育 参 事	坂 井 征 洋
学 校 教 育 課 長	飯 島 秀 美
ス ポ ー ツ 課 長	松 倉 康 治
兼国民スポーツ大会準備室長	
山 岳 博 物 館 館 長	牛 越 秀 仁
学 校 教 育 指 導 主 事	吉 澤 清
学 校 教 育 指 導 主 事	山 岸 澄 雄
学 校 再 編 係 長	渡 邊 哲 也

5 事務局 学校教育課庶務係長 平 林 晃

6 傍聴者 一 名

中村教育長：おはようございます。

時間より早いですが、第４回教育委員会を始めたいと思います。

最初に前回の会議録の承認ということで、確認をしていただき、ご署名の方をお願いいたします。では最初に、教育長報告をしたいと思います。

中村教育長：教育長報告 資料により説明

中村教育長：よろしいでしょうか。それでは報告事項の方に移りたいと思います。

飯島学校教育課長：学校における事件・事故等について 資料により説明

〔内容非公開〕

中村教育長：それでは、議事の方に移りたいと思います。

最初に議案第９号、大町市公民館運営審議会委員の委嘱についてということでお願いいたします。

坂井教育参事：議案第９号 大町市公民館運営審議会委員の委嘱について 資料により説明

〔全員 承認〕

中村教育長：ありがとうございます。

では、協議事項の方になります。教育大綱については、後にしていただき、最初に、小学校再編の方からお願いします。

渡邊学校教育再編係長：小学校の再編について 資料により説明

中村教育長：ありがとうございます。

委員の皆さんからご質問等ありますか。

森教育委員：カインズやコスコなど店舗の駐車場は大変危険だということですが、代わりになるバス停の場所というのはありそうですか。

渡邊学校教育再編係長：カインズにつきましては、出入りが大変だというのは、運行前からある程度想定はしていましたが、実際に走らせてみて、確かに大変だということを感じたところです。

ただ、できないかと言われると、実際、今回もできましたので、できることはできますが、3時から4時という帰りの時間帯になりますと、カインズは、混雑が想定されるところと考えられます。

行きは朝7時半から40分ぐらいの間に、カインズに到着すると思いますが、まだお店は開いておりませんので、来客者との往来の点に関しては、問題はないと思います。帰りについては、別に下ろせるところはないかというのは、今後、検討していかなければならないかなと思っております。

また、コスコにつきましては、当初、大新田町の後、ザ・ビッグの駐車場をと想定しておりましたが、ザ・ビッグは朝7時から開店しており、朝も帰りも混雑しているのではないかと、だったら、コスコの方が、来客者数が少なく、また該当となる旭町のお子さんもアクセスしやすいのではないかとということで、今回、設定をさせていただきました。

駐車場の比較的隅の方に駐車をさせていただいたこともありますので、他に、バス停を探すとなると、なかなか難しいのではというふうに考えております。コスコを使うとなれば、安全対策をより考えていかなければいけないのかなと考えているところであります。

中村教育長：他にありますか。

奥原教育委員：スクールバスに乗れる基準は直線距離で2キロということになっているのでしょうか。

渡邊学校教育再編係長：現在、そのことを再編準備委員会でご協議をいただいているところでございます。その中で、事務局案として、学校から自宅までの直線距離が2キロを超えたお子さんについては、スクールバスに乗車できるということで、協議いただいているところです。

奥原教育委員：この中に、直線距離が2キロはないけど、歩行距離としたら、2キロあるとか、1.96キロだから、柔軟な対応が欲しいとか、そういう、バスにぜひ乗せていただきたいという意見が多数ありますが、子供のときに、歩かせるとかいうことは、一生のことを考えると、すごく大事な体づくりにも繋がると考えています。

今の時代、安全性とか、雪の問題等も指摘されていますが、安易に認めるということだけがすべて良いとは考えていなくて、安全性とか確保できるのであれば、その子供の体を鍛えるということは、将来的にプラスになるということ、ぜひ保護者の方にもわかって

いただいた上で、バスに乗る、乗せないということの判断をしていただきたいというふうに考えています。

下川教育長職務代理者：5月の再編委員会に向けて、今回の試乗会の結果やPTAの代表の委員の方が独自で実施しているアンケート、或いは、通学ルートの安全性に関してのアンケートなど、その辺と事前に話し合いをして、その結果として、再編準備委員会にかけただけだとスムーズにいくかなと思っています。

先ほど北部小について、教育委員会の推奨ルートというのも、PTAの代表の方からのご意見なのですか。

渡邊学校教育再編係長：小学校再編準備委員会か保護者への説明会など、そういった中で、話が出てきたというふうに認識をしております。

やはり北部小学校については、全員が歩く方向が変わる。全児童が新しい旧一中に通うということで、その辺の不安も非常に大きい保護者の方がいるのかなということで、ある程度、今回、教育委員会は通学路の指定はしておりませんが、比較的、このルートを通じていただければ、安全なのではないかというものをお示しすることによって、徒歩で通学をされる保護者さんの目安になるのかなということで、考えているところでございます。

下川教育委長職務代理者：5月に向けて、そういう案的なものも準備するというように考えていますか。

渡邊学校教育再編係長：小学校再編準備委員会でそのルート案までお示しができるかは定かではないですが、そういったアナウンスをしながら、学校再編ニュースや保護者説明会の折に、お示しできればいいかなと考えております。

小学校再編準備委員会の中では、推奨ルートをお示ししていきたいという話はあるかと考えます。

下川教育長職務代理者：わかりました。交通安全協会や警察など、あと建設会社が通学路の安全チェックをしているといった報道もあったかと思うので、そういう情報もとらえて、それをベースに推奨ルートの的なものができればと思っています。

それからもう1つは停留所について、雨風をしのげる環境とか、除雪とか、新しい停留所に対しての横断歩道の設置ですとか、そういった要望も保護者の方から聞こえてきていて、今日のレポートで、そういった視点の指摘も書いてありますので、ぜひその辺も考慮いただきたいと。それからもう1つ、バス停集まる子供たちを守るポールなんかも、必要によって設置したらどうかと思いました。

中村教育長：では続きまして、令和6年度の市内小中学校の不登校等長期欠席児童生徒の状況についてお願いいたします。

山岸学校教育指導主事：令和6年度市小中学校の不登校等長期欠席児童生徒の状況について 資料により説明

中村教育長：皆さんが何か、ご質問があればお願いします。

奥原教育委員：自分のクラスから不登校の生徒が出たりした場合、担任が1人でプレッシャーというか責任感を抱えるようになると、この教員の学級経営とかが上手くいなくなるということがあると思うので、各学校で、チームとして、一番苦しい担任に対する支援ということができるといいなということを感じています。

あともう1点、資料の5ページに外部機関というのがあるのですが、この外部機関の位置付けというのが、どうなっているのか教えていただきたいと思います。

山岸学校教育指導主事：5ページに上がっている機関については、出席扱いとなっております。アルプスの家も定期的に、学校と紙ベースでちゃんと連絡を取り合うということで、お子さんごとに、そういう記録を取っていただいて、やりとりをしていただいております。

フリースクールの方に通ってるお子さんについてや、「たからばこ」さん、「ボレポレ野の花さん」の方は。子育て支援課を通して月ごとの状況が、私の方に子育て支援課からくるので、メールで各学校の方に送って状況を伝えております。

それをもって学校の方も訪問したり学習指導員との話をしたり、教育支援センターの方にも、在籍してるお子さんの担任や教頭先生が状況を見るということで、関わっていただいております。

各学校での支援会議の中で、こういう場所もありますよといった提案をしたり、または保護者の方から、こういうところに、通いたいですけどどうでしょうという相談をもって、入室許可という形をとっています。時々その辺をはき違える方がいるので、調整を私の方で図りながら進めております。

中村教育長：学級担任の抱え込みの問題ですけど、これについては、不登校にしろ、いじめにしろ、今は個人の先生が対応するということは、もう限界にきている状況ですので、学校として、学校のチーム、または外部の機関も含んだ形のチームとして、対応していくということを、学校の方にはお願いをしています。

そういう仕組みづくりも、学校の中ではぜひ進めてもらいたいということがあります。

でもその一方として教育委員会の方としても、先生方の個々の子供への対応のスキルアップということも求めているかなきゃいけないというふうにも感じています。

支援会議の研修会を行ったり、様々な研修会のところで、先生方にも出ていただいて、この不登校、いじめの対応について、検証していただくことが必要だと思っております。

北澤教育委員：先ほど、不登校の要因の中で、生活リズムの不調とかやる気が出ないとかの項目の人数がすごく多かったのですが、やはり幼児期からの生活習慣というのがすごく影響しているのではないかということも感じました。

小学校の先生が保育園とか幼稚園に行って、園児の様子を見るという機会は、今学校では、ほとんどないのでしょうか。

吉澤学校教育指導主事：教育支援委員会の委員が各学校におりますので、その委員はそれぞれ、入学予定のお子さんの園を回って、お子さんの様子を参観する機会を設けてあります。

北澤教育委員：1年生の担任の先生とかが、実際にその保育園とか幼稚園に行って、その現場を見るということも、保育士の子供に対する接し方とか、そういうのを見ていただくということも、時間のない中で難しいことかもしれませんが、すごく参考になるのではないかと思います。

吉澤学校教育指導主事：連携を図っていく必要があるということがありますので、教育委員会の方で検討して、小学校に入るまでのスタートプログラムを考えていくということは計画をしていこうと思っております。

中村教育長：大町市の義務教育のあり方検討委員会の中で出た指針の中に、幼保小中高一貫した教育を進めて欲しいということが出されていますので、小中一貫については、大町市の方は大分進んできてるなと思うのですが、幼保小中まで、どんなふうに子供たちを育てていこうかという一貫したものは、特に今ない状況です。

今、幼稚園、保育園の子供たちは、小学校に上がってくると学習や学校生活において集団でできるように指導を受けていることが多く行われています。ところが、それに対して不適合を起こす子が増えてきている。それは現実だと思っております。

ではどうすればいいかというところは、幼稚園、保育園の先生と小学校の先生で、やはり検討していかないとまずいと思います。

他地区では小学校のスタートカリキュラムというものが作られているのですが、これは、小学校の1年生の4月から5月あたりを、どういうふうに子供たちを教育していくかというところのカリキュラムを作っております。まだ大町市はそれが整備されていないで

す。やはりそういうものも整備していくところから、まずは取りかかってたらどうかということは思っています。

下川教育長職務代理者：立川市が随分前に実施したスタートアップカリキュラムを確認しました。小学1年生としてこれはできるか、やっているかといったチェックリストでした。このようなチェックが必要かどうかは別として、スタートアップカリキュラムは必要だと思います。

中村教育長：幼稚園、保育園も小学校に上がるのだから、こういうことができればいけないという、指導を今してると思います。

しかし、それと小学校で指導する内容というのは、小学校の1年生だからこうあらねばならないというところからスタートしてるので、子供がそれに対してギャップを起こしてるのは当然だと思います。

これだけ時代が変わってきて、子供の家庭での生活も、今までとは全然違うもので、いじめが低学年で増えるとか、不登校が1年生の段階でも出てきているのが今の現状ですので、そこも配慮した形での、小学校1年のスタートを考えていかなければならない考えております。

北澤教育委員：暴力的というか、思わずすぐ手や足が出るというお子さんは、私の個人的な感じですが、親との関係というか、一番最初の愛着形成の部分がどうしても不足しているのではないかと感じます。その子供が安心できる部分に気づかないまま、大きくなってるとような気がします。

吉澤学校教育指導主事：それは大事なことで、例を挙げると、不登校のお子さんがなぜ学校に来られないか突き詰めていくと、一日中、家で同じことをしていて、生活のリズムができていないので、学校に行くこと自体がもう無理になってしまっている。

そういうところから、きちんと親御さんを指導していくことによって、ちょっとずつ、登校に繋がってるケースもある。そういうことも含めて、学校も一緒に考えていかないといけないと思います。

中村教育長：では、教職員の勤務時間の状況につきましてはお願いします。

平林学校教育庶務係長：令和6年度教職員勤務時間の状況について 資料により説明

中村教育長：時間的な問題でいけば、大町市の方はすごく改善されてきていると思います。

これから先生方の働き方改革を、ウィルビーイングの方に、どんどん舵が切られてきていますので、先生がたがどれだけやりがい、生きがいを持って、学校の仕事に携わっていただけるかという部分がさらにこれからはクローズアップされてくると思っております。

森教育委員：先生方が自宅に仕事を持ち帰っている割合の調査はなかったのですか。

平林学校教育庶務係長：この結果の中には出てきていませんが、本来の調査の中では持ち帰る時間数のところまでやっています。どこまで正直に答えているかわかりませんが、いずれにしろ、時間数的には少ないです。

吉澤学校教育指導主事：校務支援システムので、かなり学校でその部分は処理できるようになっています。持ち帰りの時間は、記録上はほとんどゼロに近いです。

奥原教育委員：今のこの時間管理は出勤したら、パソコンで、ログインしたところから勤務が始まってということか。

平林学校教育庶務係長：タイムカードで、管理しております。

下川教育長職務代理者：校務支援システムは、自宅ではできないのですか。

吉澤学校教育指導主事：それはできないんです。

中村教育長：では、大町市行政改革推進委員の選出についてということでお願いします。

平林学校教育庶務係長：大町市行政改革推進委員の選出について 資料により説明

〔下川教育長職務代理者を選出 承認〕

中村教育長：よろしくお願いします。

では最後になります教育大綱についてということでお願いしたいと思います。

太田教育次長：教育大綱（案）について 資料により説明

中村教育長：教育大綱（案）について 補足説明

下川教育長職務代理者：学校関係者とか子育て世代の方含めて、そういう方との意見交換というフェーズを設けないのかという質問です。

かなりタイトなスケジュールになると思いますが、私はそういう意見交換会で、いろいろな人の意見を聞く必要があると思っていて、そういう段階がスケジュールの中にあったらいいなと思います。

パブコメをするという類の話ではないと思うのですが、少なくとも意見交換や提案なり要望を盛り込むような形で作ったらどうかという気はします。

ただ、私はこの大綱というのは、具体的な施策を書くのではなくて、その施策はまた別計画など、そういうところで具体化していくと思っていて、あまり細かく意見を聞くと、施策レベルの話になってしまうので、難しいところがあると思ってます。

広く大綱についての意見を聞くというステップを設けるとしたらどうなるというのも考えていただければと思っています。

奥原教育委員：各学校には学校目標があって、それぞれの指導がなされてると思うのですが、この大綱は独り歩きするものではなく、各学校に、この思想というか方針が浸みこむような、独り歩きだけはしないような、ご配慮をお願いできればありがたいなと思います。

中村教育長：それではあと連絡事項についてお願いします。

平林庶務係長：連絡事項について 資料により説明

中村教育長：長い時間ありがとうございました。

これで第4回教育委員会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

《午前11時55分 終了》